



5月27日 深大寺自然広場にある、通称カニ山キャンプ場。初夏の木漏れ日の中から子ども達の声が響く。

ほら！上の方に何かいるよー



カニ山冒険くらぶは身近な自然の中で美味しく楽しく遊びたい、という金入さんの呼びかけで参加した人達の集まり。始めて参加した子も気持ちの良い自然の中でいつものまにか自分のお気に入りの遊びをみつけて動き回る。

クワガタムシの頭を発見！胴体はカラスなどに食われてしまったようだけど、もう出てきているのですね。また探しにきてね。



## カニ山で遊ぼう！



茶道の得意なお母さんが、野点を催してくださいました。「お母さんといっしょにやってみようか」「僕やったことあるよ！」「みんなきちんと正座して礼儀正しく抹茶をいただきます。」



ハンモックはいつも人気。2人3人と乗ってそれを揺らす子も。ブランコとは違う雑木林ならではの楽しさか！



テーブルの周りで一休み



柏餅できた！ 美味しそう！



お好み焼きを焼く横であんこを煮ます

あんこ、丸める人～ ほらこうやってね。



働くお母さんも多いため、休日に開催しているカニ山冒険くらぶ。できるだけ毎月開催したいけど、この場所の予約がなかなかむずかしいのが悩みの種とか。

参加者に制限は無いのですが中心になっていらっしゃる方が若いお母さんなので、どうしても若いママと子どもに偏りがち。毎回お手伝いをしてくださる男性もいるのですが、もっとパパたちにも参加して欲しいとのこと。  
「女性は初めての方も気軽に参加してくれませうけど、男性は何か目的とか役割が無いと参加しづらいのかもしれないね。」  
せっかくの休日、男性にも参加してもらって地域の自然環境にも目を向けてほしいですね、

### 花の履歴書 ④9

戸部英貞 (絵・文)

## ウツギ (空木) アジサイ科



Deutzia crenata

「卯の花の匂う垣根にホトトギス早も来鳴きてしのびねもらす夏は来ぬ……」年配の人ならば誰もが知っている有名な「夏は来ぬ」の一節だが、季節の風物を見事に表現した童謡で、その情景を思い浮かべ、懐かしむ人も多いのではないだろうか。

『万葉集』にはウツギを詠ったものが24首あるが、そのうち18首がホトトギスとの組み合わせで、いかに初夏とウツギとホトトギスの関係が結びついていたかを知ることができる。しかし、ウツギの花やホトトギスの声を耳にするような場所も少なくなり、童謡を歌う子供も、それを教える母親も少なくなってしまった。

ウツギは北海道、本州、四国、九州に自生する落葉低木で、林縁や雑木林、崖、畦などに生え、根元からブッシュ状に育つため、昔は畑など耕作地の境界木としてよく植えられ、材質が固く木釘に使われている。

ウツギはウノハナ(卯の花)の別名もあり、卯月(うづき陰暦4月)

に花が咲くから、茎の中心に空洞になって穴が開いていることから「うつろな木」の意味で名付けられたとも言われている。ウツギの名が付く植物はアジサイ科だけでなく、スイカズラ科のハコネウツギやバラ科のコゴメウツギなど茎の中に空洞のあるものに名付けられている。

住吉大社の創立記念日が神功皇后摂政11年の卯年卯月の卯の日と伝えられウツギはゆかりの花として大切にされ、5月最初の卯の日に「卯の花神事」が行われている。

また長野県の生島足島神社では1月15日の「蛙狩神事」ではウツギの枝で作った弓矢を用い、その毒によりカエルがいなくなるといわれている。そのほか京都の上賀茂神社では新年の初卯の日に行われる「卯杖の神事」や九州の豊後高田市には空木という地名があり、奥愛宕神社ではウツギを使って火を起こす神事が行われる。

### チョウウ好きの観察記 その⑧

#### ウラナミシジミ 都内初記録

ウラナミシジミは熱帯性でみかけによらず移動力の強い蝶です。年平均気温が摂氏12度以上の霜の降らない地域で越冬すると考えられていて、関東地方の北限は房総半島の南部です。春に発生した成虫は、世代を繰り返しながら北上し東京都の早い記録は7月からというのが従来の常識と言われ、普通は秋に姿を現しその美しい裏波を見せてくれる蝶です。

この春、まだいない筈のウラナミシジミが緑地で観察されましたので以下報告します。

3月29日午後2時8分緑地の草はらで、スカイブルーの蛭蝶が舞い上がるとそれに反応してもう一頭現れなんと交尾を始めた。この時期ではルリシジミかな? と思いましたが翔の裏の模様が違います。これはウラナミシジミか? と半信半疑で写真を撮り続けました。ジリジリと微かに体を動かしながら葉の上を移動し、ゆっくり回ります。32分間交尾を続け午後2時40分に離れました。分離後、雄雌は表面をイッパイに広げましたので判定の資料として写真を撮りました。



写真の上がりを持って、「東京都の蝶」の発刊元である「西多摩昆虫同好会」の幹部の方に写真と状況を送り判定をお願いしました。

いしました。

結果は、①ウラナミシジミの低温期型である事 ②編集者の方も初めて低温期型の写真を見た事 ③当地で越冬したのでは無く、今年の暖かった南風に乗って偶然現れたと推測する事 ④都内での春の記録は、初めてである事 ⑤然るべき機関に発表する価値が十分ある事 ⑥発表先は「月刊むし」が適当である事、でした。その後ウラナミシジミを探しましたが、すでに移動したのか5月末日現在現れていません。

この都内初記録の発表をどの様にするか思案中です。軽はずみに行うと、この緑地に蝶の収集家や昆虫写真マニアが訪れて草はらが荒らされたり近隣の皆様にご迷惑をかけたら困るし……。つまりこの緑地が昆虫達のサンクチャリになるようなかたちで発表したいのです。皆様のご意見を賜り度宜しくお願い致します。(衛藤 譲二)



### 6/2 環境フェアで丸太切り

子どもたちだけでも50人以上の参加があった丸太切。大人の男性も実はタイムトライアルに挑戦したいのでは? 樹林の保全活動の中で玉切は大変な労働だけれど、遊びにすれば楽しい!



# 入間・樹林の会

4月15日(日)雨・曇り参加者10名

林内巡回後、ゴミ拾い、坂道清掃。保全活動はキンラン保護柵づくり、通路整備、落枝処理、サネカズラ伐採を行った。ウラシマンウが樹林地内のあちこちでみられた。ホウチャクソウもサネカズラを伐採すると多く生えているのがみつけた。



ニリンソウ



ホウチャクソウ



ガマズミ

5月20日(日)晴れ参加者12名  
1ヶ月遅れの植生調査では、これまでと違ってヤブジラミやエナシヒゴクサの実も観察できた。プチ違いはマテバシイとタブ、イヌワラビ・ヤブソテツ・ベニシダ、ヤブミョウガ・ミョウガを観察した。(安部)



方形粋調査



ベニシダ孢子

ヤブソテツ孢子

# カニ山の会

4月14日(土)晴れ参加者11名

今年度、新たに緑と公園課課長として移動してこられた香西課長が挨拶に来られ、いっしょに作業。女性陣は春の植物調べ。若葉の森でも「キンランがたくさん咲いた」と聞いていたが、カニ山でもここ数年で一番の花の数。ギンランは初お目見え。今年の春は例年になく早く、カマツカ・クロモジの花はそろそろ終わりにかけていた。東樹林東の借用地はあつという間に樹木の枝や草が伸び放題。小さな樹林地だがか中を歩けるように男性陣が草刈り。新旧課長もいっしょにいい汗を流してくださいました。ようす。お疲れ様でした。



5月12日(土)晴れ参加者7名  
女性には東樹林東の植物調べ。午後から調布駅前であつふ環境市民会議の一員としてアースティに参加するため、竹の切り出しを行った。かなり太い竹を切ったので、自転車で会場まで運ぶのに一苦労。落ち葉溜めにあった腐葉土も配布用に少し掘り出した。午後も残ってシラカシの間引きなどの作業をした人もいた。(鍛冶)



(鍛冶)

# 若葉緑地の会

4月8日(日)晴れ参加者6名

小学生の頃は頻りに参加していた近所のD君。中学生になって忙しいようで、この日は久しぶりの参加。鉈の使い方を教わりながら、落葉溜補修のための杭を作った。緑地内と大坂の清掃も。



鉈の使い方をお教えしてもら



補修が終わった落葉溜

第3緑地でもキンランが例年より2〜3週間早く開花。後から開花したギンランと隣り合って咲く、珍しい光景が見られた。(写真のキンランは花が落ちた状態)



キンランとギンラン隣接

# 若葉の森3・1会

4月1日(日)晴参加者9名

調布市代田次長が隣地境界の対策報告と挨拶を兼ねて参加。キンラン・ギンランが例年より早く開花。第2緑地で、生育保護柵の口ープ張り直し、竹囲い設置、竹柵設置。9日に注意札設置。六別坂と緑地内通路落葉掻き。ごみ拾い。



4月14日(土)曇り参加者2名  
キンラン・ギンラン植生株数調査。3年目の今年の特徴は、キンランの大型化と株数減少。第1緑地のギンランは激減。隣地の宅地開発による日照変化などの影響か？



# 凸凹森の会

4月22日(日)曇り参加者8名

この日はタケノコ掘りをする予定でした。が、目当てのタケノコはほとんど見つかりませんでした。今年は春先に暖かい日が続いたせいでシーズンが早まったのかな？というのがみんなの推測。昨年、竹林の勢力を回復させようと話し合い、タケノコ掘りを休むことにし、新しい竹を伸ばし、曲がったり混み合ったりした竹を整理したところ、竹林が綺麗になってきました。



5月27日(日)晴れ参加者8名  
毎月草刈りをして追いつかないほどに、この時期は日当たりの良い原っぱはすぐに草が繁茂します。草刈りだけで終わっては活動の楽しみがありませんが、今年はウメが早く実り、もう収穫できるほどになっていたので、みんなで実を集めました。来週もまた収穫することになりました。(石原)

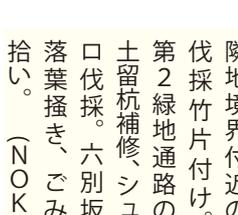


足尾植林用の幼木

(大村)



流出土で階段補修



流出土掻き出し

### 平成30年度 雑木林ボランティア講座

#### 5月26日 第1回講座開講 調布の雑木林過去と現状



今年度講座のお手伝いスタッフとして参加して下さった小侯さんに昨年の感想と今のよすをお聞きしました。

「参加してみようかな」との気軽さから始まった昨年度の雑木林ボランティア講座が第一歩でした。全6回の限られた時間内での講座なので最小限の知識と作業の実技取得ではあったと思いますが講師の先生はじめお世話頂いたボランティアの諸先輩たちとの楽しい時間を過ごすことが出来ました。

特に印象に残っているのがビーディングによる昆虫採集。もうひとつ雑木林の恵み体験での焼きマシユマロは今でも忘れていません。

講座終了後は川の流れのように雑木林保全グループにて微力ながら活動を始めてもらい、竹の切り出しや竹の粗朶柵作りなども行いました。

これからは先輩からの知識や実技の伝授もあるかと思いますが、作業備品のメンテナンスの仕方や作業の実際の「マニュアル本」などがあると良いと思います。

した。

安全管理は重要だと思いますので、ヒヤリハットなども取り入れたり、3管理（作業環境管理、作業管理、健康管理）の視点でスローガンを作るのも良いかもしれませんね。

服装は今のところGパンと軍手ですがこれからの時期、高湿度や暑さなどを考慮して機能性や安全性の高いものを選択できると良いなと思っています。

気負わず無理せず参加者一人一人はとも微力なものですが出会い協同することで少しだけ大きな行動となっていくと思います。市制施行のずっと前より地域の方々より受け継いだ自然を多くの仲間と一緒に繋いでいく一端を担っていければと思います。 小侯 智久

### 野川の生き物調べ

「身近な川を見守る会」では、野川の細田橋付近での定点観察調査を20年以上続けてきました。この場所は野川の本流に佐須用水が流れ込んでおり、本流と湧き水の用水との差異が観察できる地点です。

5月19日の調査でも、用水の水温は本流よりも2度低く、きれいな水の指標生物のアシマダラブユやガガンボの幼虫の棲息が確認できました。毎回、専門家の方を講師に、採集した生物を観察しながら特徴などの説明を聞けるのもこの調査の楽しいところですよ。



水辺のクワの美

私が所属する野川流域連絡会の生きもの分科会では、現在「野川の生きもの

イドブツク」の改訂作業を進めています。野川周辺で見られる植物、水生動物、昆虫、鳥類について鮮明な写真と差し替えながら内容も見直して今年の秋には出来る予定ですよ。

身近な川を見守る会  
ドウマンジュ恭子

### 「若葉の森」で蛾が乱舞

5月13日の朝、若葉緑地の会の活動のため若葉町3丁目第3緑地に行く時、花が満開のミズキの周りで、白い蝶？多数が乱舞。びっくりして、蝶や蛾に詳しい衛藤譲二氏に照会。蝶ではなく、キアシドクガの大発生と判明した。相模原市立博物館学芸員のブログによると、同館周辺の樹林では大発生が4年続いている。ドクガ科に属するが毒は無く、幼虫はミズキの葉を食べる。大発生すると、ムクドリなどの恰好の餌にもなるようだ。第3緑地では10日間ほどで姿が見えなくなり、ミズキの葉には目立つ被害はなかった。



6月1日、崖線樹林から数十メートルの我が家の庭でも別の蛾が乱舞。こちらはウメエダシヤクで、その名のとおり梅の木を周りを飛び交っている。3日間ほどで収まり、「大発生」というほどではなかった。しかし、緑地のキアシドクガも、庭のウメエダシヤクも、この十数年で初めて目撃した現象。「東日本は史上最も暖かい春だった」（6月1日気象庁発表）ことと関係があるのだろうか？



大村哲夫

### 入間・樹林の会

9月までは毎月第3土曜日に樹林の保全活動を行っています。参加希望者は直接入間地域センターへ。

●6/16(土) 9:30～12:30  
●7/21(土) 9:30～12:30  
両日共、保全作業

### カニ山の会

毎月第2土曜日に自然広場で保全活動を行っています。参加希望者は野草園横に直接集合。

●6/9(土) 10:00～15:00  
●7/14(土) 10:00～15:00  
作業場所が増えたため当分、午後までの活動とします。

### 若葉緑地の会

原則毎月第2日曜日に若葉町3丁目第3緑地で保全活動を行っています。参加希望者は直接現地へ。

●6/10(日) 9:30～12:00  
●7/8(日) 9:30～12:00

### 若葉の森3・1会

原則毎月第1日曜日に若葉町3丁目第1・2緑地で保全活動を行っています。参加希望者は直接現地へ。

●6/3(日) 9:30～12:00  
●7/1(日) 9:30～12:00

### 凸凹森の会

原則毎月第4日曜日に上石原布田崖線緑地で保全活動をしています。

●6/24(日) 9:30～12:00  
●7/15(日) 9:30～12:00  
イベントの事前準備

●7/22(日) 9:30～14:00  
流しそつめん

先の5団体の保全活動問合せは緑と公園課 042-481-7083へ

## 環境市民活動スケジュール

### “自然だより”の置き場所を募集中です。

- ◆地域福祉センター、たづくり11Fみんなの広場、調布市環境部（市役所8F）、あくろす2・3F、多摩川自然情報館のほか、神代植物公園植物多様性センター、てらのサウルス（国領）、えねこや、みさと屋（布田）おきもと内科クリニックなど。置き場所&応援カンパ募集中です！
- ◆会員募集！年会費1000円/サポーター会員500円  
郵便振替(00150-9-765663 ちょうふ環境市民会議)

## 市民発 ちょうふの自然だより

◆「ちょうふの自然だより」はカンパとボランティアで支えられています。2009.3.15に設立された市民団体「ちょうふ環境市民会議」が自主発行しています。調布市内の身近な自然情報や市民の保全活動の記録、環境イベント案内、コラムなどを掲載、無料で配布しています。

発行：ちょうふ環境市民会議 連絡先：info@chofu-kankyo-shimin.org ※携帯メールでのお問合せには当方の返信が届かない場合があります。

◆この自然だよりは ちょうふ環境市民会議ホームページにも掲載、バックナンバーもご覧になれます。◆